



幼・小・中連携による歌唱技能の発展的指導：
歌唱領域達成課題系列の作成

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター 公開日: 2020-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菅, 裕, 藤本, いく代, 葛西, 寛俊, 阪本, 幹子, 浦, 雄一, 金本, 志秀, 岡元, 雅代, 谷口, 朋美, 中馬越, 恵美, 永江, 彩乃, Kasai, Hirotoishi, Kanemoto, Shiho, Okamoto, Masayo, Taniguchi, Tomomi, Nakamagoe, Megumi, Nagae, Ayano メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/5391

幼・小・中連携による歌唱技能の発展的指導

—歌唱領域達成課題系列の作成—

菅 裕ⁱ⁾・藤本いく代ⁱⁱ⁾・葛西寛俊ⁱⁱ⁾・阪本幹子ⁱⁱ⁾・浦 雄一ⁱⁱ⁾
金本志秀ⁱⁱⁱ⁾・岡元雅代^{iv)}・谷口朋美^{iv)}・中馬越恵美^{v)}・永江彩乃^{v)}

**A Systematic Instruction of Singing Skills with Cooperative Work
by Kindergarten, Elementary School and Junior High School Teachers
— Making a Sequence of Goals in Singing Area —**

**Hiroshi SUGA, Ikuyo FUJIMOTO, Hirotohi KASAI, Mikiko SAKAMOTO,
Yuichi URA, Shiho KANEMOTO, Masayo OKAMOTO, Tomomi TANIGUCHI,
Megumi NAKAMAGOE, Ayano NAGAE**

1. はじめに

本研究の目的は、幼児・児童・生徒の歌唱技能の実態を分析し、各発達段階での達成課題を明確にした歌唱指導カリキュラムを開発することにある。

幼稚園教育要領では、身近な周囲の事物との関わりを通して感じたことや考えたことを自分の声を含む様々な素材や手段の特性を生かして表現することが求められている(文部科学省 2008a)。また小学校では、表現の支えとなる歌い方を身に付け、自分の声と周囲の声を調和させながら歌うこと(文部科学省 2008b)、さらに中学校では、音楽の背景となる文化と関連付けながら曲種に応じた発声をするなど、表現に必要となる技能を獲得することが求められている(文部科学省 2008c)。しかしながら、音や音楽で遊び表現する段階から、楽曲の特徴にふさわしい表現技能を獲得し、自律的に表現を追求していく段階までを見通した長期的で具体的な歌唱指導計画は明確にはなっておらず、各学校・各学年の実態に応じて個別に指導されているのが現状である。

幼稚園から中学校に至る10年間は歌唱表現のための基礎的技能を形成する上で重要な時期である。この時期に歌うことについての苦手意識を獲得した場合、それは永続的な自己像となり、将来の音楽的な発達の見通しを危うくすることが指摘されている(Custodero 2010)。

歌唱領域の基礎的技能の指導については、呼吸法や発声法について海外の理論を紹介する研究はあるものの(佐々木 2008, 虫明・黒井 2010)、幼・小・中を見通した長期的な展望に基づく系統的・発展的な指導法についての研究はない。

そこで本研究では、特に歌唱の基礎的技能である姿勢や呼吸法・発声法などの身体的技能を中心に、系統的・発展的指導の可能性を検討する。

i) 宮崎大学大学院教育学研究科

ii) 宮崎大学教育文化学部

iii) 宮崎大学教育文化学部附属中学校

iv) 宮崎大学教育文化学部附属小学校

v) 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園

いうまでもなく歌唱技能の発達には、他の領域における知識・技能の発達と無関係に進むわけではない。例えば、鑑賞領域における音楽理解は、声部の役割を考えながらそれにふさわしい歌い方を工夫していく上で必要不可欠である。しかしながら本研究では、表現の工夫にかかわる内容には踏み込まず、その土台となる身体的技能および自分の声や他の声部を聞きながら歌う力の領域に研究対象を限定している。

小学校高学年や中学校で求められる全体の響きの構築を目標とし、個々の幼児・児童・生徒の技能習得の段階から、お互いの声を聴き合い相互批評しながら全体の響きを主体的につくり上げていく段階までを見通した歌唱指導カリキュラムの開発を目指すところに本研究の特色がある。

2. 研究の方法

まず小・中学校各段階の児童・生徒の歌唱技能の実態について、附属小・中学校音楽科担当教員からの聞き取り調査を行った。この調査に基づき、授業の中で課題となっている歌唱技能の領域を観点として抽出し、後述する授業観察シートを作成した。この授業観察シートを用いて、研究者全員による小・中学校授業観察を行い、児童・生徒の歌唱技能の実態について詳細に調査した。この調査結果に基づき、歌唱領域における小・中学校を見通した歌唱領域の達成課題系列を作成した。

3. 宮崎大学附属小・中学校における児童の歌唱技能の実態

(1) 授業者から見た児童・生徒の歌唱技能の実態

宮崎大学附属小・中学校で音楽の授業を担当している3名の教員に対し、児童・生徒の歌唱技能について現状で課題となっている点を挙げさせた。

小学校低学年での課題として挙げられたのは次の4点である。

- ① 声を張り上げて叫ぶように歌う子どもがいる。頭声的発声はできていない。
- ② 口の開け方に個人差がある。
- ③ 歌うときに集中力が途切れる子どもがいる。
- ④ 音やテンポがずれてもわからない子どもがいる。

授業者から見て小学校低学年で課題となっていることは、主に集団で協調して歌うことへの意識や態度であることがわかる。

小学校中学年では、次のような発声技能や声質に関する課題が挙げられている。

- ① 歌う姿勢が崩れることがある。
- ② 高い声は完全な裏声である。歌いやすい音域と高音域の切り替えが難しい。
- ③ ゆっくりとしたやさしい感じの曲では声を響かせようとするが、元気のよい曲になると話し声に近い声で歌う傾向がある。
- ④ 響きのある声で歌うと声量がなくなる。

小学校高学年では声質の課題に加え、正確な音程についての課題や互いの声を聴いてハーモニーをつくることに関する課題が増えている。

- ① 高い音は上ずり，低い音は下がり気味になる。
- ② 自分のパートを歌うことに必死になっており，互いの声を聴き，ハーモニーをつくることが難しい。
- ③ 和音がきれいに重なっているかどうかの判断ができない子どもが多く，聴くことの経験不足を感じる。
- ④ 高い声はまだ裏声の子どもが多い。また，特に男子は低い声は地声になりがちである。
- ⑤ 言葉が不明瞭。
- ⑥ 口がほとんど開かない子どもが各クラスに数人ずついる。
- ⑦ 声変わり途中の子どもは，低く歌ったり高く立ったりするのは歌いづらそうである。また，周りの子どもと高さが違うことで自信がもてない様子もうかがえる。

小学校で指摘されている発音・発声に関する課題は中学校段階でも指導の対象となっている。

- ① 手を後ろに組み，「休め」のように片膝に重心をかけて立っている。
- ② 喋るときと同じ発音になっている。
- ③ 顎の先が前に突き出ており，のどの奥が開かず，顎関節の開閉を使えない。
- ④ 声に勢いがいない。
- ⑤ プレスの時間が長い。
- ⑥ 言葉が不明瞭。
- ⑦ 大きな声で叫ぶように歌う1年生。
- ⑧ 男声（特にバス）のピッチが下がり気味。
- ⑨ 声量をセーブさせるとピッチが下がる。

姿勢や呼吸などの身体的コントロールや正確な音程など，基礎的技能における課題が一貫して報告されていること，学年が進み，教材楽曲の音域が広がるとともに，分かれて歌う声部が増えていくにつれてこれらの基礎的技能の不足を原因とする演奏上の問題が顕著になっていくことがわかる。

(2) 授業観察シートの作成および授業観察

授業者からの聞き取り調査によって明らかとなった児童・生徒の歌唱技能に関する課題を次の5つの領域に分類した。

- ① 姿勢・態度に関する課題
- ② 身体の使い方に関する課題
- ③ 発声に関する課題
- ④ 全体の響きに関する課題
- ⑤ メタ認知に関する課題

①の姿勢・態度に関する課題は、歌う行為に向かうための気持ちの切り替えや集中力の維持に関する内容である。具体的には歌っている間、前を向いてまっすぐ立つ姿勢を持続するという基本的な歌唱態度を身につけさせることが課題となっている。

②の身体の使い方に関する課題は、呼吸を含む発声の基礎となる効率的な運動感覚に関する内容である。腹式呼吸の習得が課題の中心となる。

③の発声に関する課題では、十分な共鳴を持つ頭声的な声質の獲得と、声域間のなめらかな移行が求められる。

①～③が主に個人の歌い方に関する課題であったのに対し、④の全体の響きに関する課題は、集団で美しい響きをつくるのが課題となる。各声部の役割を理解して、バランスを考えた歌い方が必要となる。

⑤のメタ認知に関する課題は、歌っている自分や友達の状態をモニタリングし、評価することに関する内容である。

この5つの領域についての幼稚園を含む各発達段階での主な課題を表1のように整理した。

表1：歌唱技能の課題領域分類

学年	姿勢・態度	身体の使い方	発声	全体の響き	メタ認知	
幼稚園	●のびのびと元よく歌う				●歌ったときの気持ちや言葉にできる	
小学校	低学年	●“歌う姿勢”を作ることができる(前を見まっすぐ立つ)	●体幹を意識した状態で、自然に呼吸できる	●話したり、叫んだりする声と歌う声を区別して歌える	●声質や声量のバランスを考えて歌える	●自分の歌い方を自己評価できる
	中学年	●“歌う姿勢”を持続することができる	●腹式呼吸の仕組みがわかる ●腹式呼吸と声の関係がわかる	●高音域を頭声的発声で歌える	●各声部の役割の違いに気づき、声質や声量のバランスを考えて歌える	●他の声部や全体の響きを聴きながら歌える
	高学年	●“歌う姿勢”について相互評価し、改善のための意見が言える	●腹式呼吸ができる ●腹式呼吸と声を結びつけることができる	●音域を問わず、密度の高い声(芯のある声)が出せる	●各声部の役割を理解し、声質や声量のバランスを考えて歌える	●全体の声質や響きについて自己評価できる
中学校		●歌うための呼吸と、効率のよい身体の使い方ができる	●低音域から高音域までムラのない声で歌える ●バランスの取れた共鳴(頭部・鼻腔・胸部)を備えた声で歌える	●各声部の役割を理解し、全体として、統一された声質で、よい響きが得られる	●全体の声質・響きを評価し、改善のための方法を提案できる	

この5つの観点に基づき、研究者全員で小・中学校各段階の歌唱授業の観察を行い、児童・生徒の実態について調査を行った。その際、表2に示す授業観察シートを作成し、これに児童・生徒の歌唱時の各課題領域に関連する行動を記入する形でデータ収集を行った。

対象となった授業の指導計画は、資料1～4に示す通りである。

1) 姿勢・態度に関する課題

小学校低学年では、机によりかかたり椅子にもたれたりするなど、基本的な歌う姿勢が作られていないことや、歌うことに集中できず立ち歩いたり後ろを向いたりする姿についての指摘が多かった。中学年になると音楽に合わせて身体を動かしながら歌うなど、歌うことに気持ちが向いている姿が見られるようになってきている。しかしながら立っている持続できず、ふらふらと不安定になる様子も見られた。高学年では、立っているときの姿勢だけでなく座っている

表 2：授業観察シート

平成 26 年度学部附属共同研究（音楽）授業観察シート

記録者のお名前		授業実施日時 月 日 : ~ :		
授業者		対象学年 幼稚園		
姿勢態度 のびのびと元気よく歌う	身体の使い方 のびのびと元気よく歌う	発声 のびのびと元気よく歌う	全体の響き のびのびと元気よく歌う	メタ認知 歌ったときの気持ちを言葉にできる
児童・生徒の行動・発言（発声時刻）	児童・生徒の行動・発言（発声時刻）	児童・生徒の行動・発言（発声時刻）	児童・生徒の行動・発言（発声時刻）	児童・生徒の行動・発言（発声時刻）

ときの姿勢も不安定であることが指摘された。こうした姿勢に関する問題は、中学校では少なくなっている。しかし立っているときに一方の足に重心をかけた「休め」の姿勢が一部の生徒に見られた。

2) 身体の使い方に関する課題

小学校では低・中・高学年を通じて、体幹を意識して安定して立つことができていることや、背中が曲がって身体の軸が不安定になっているために、横隔膜を十分に使えず、息がしっかりと吸えていないことが指摘された。中学校では、肩やあごに力が入っている様子が観察された。

3) 発声に関する課題

低学年の男子に多かったのが、叫ぶように歌う姿である。話すための声と歌うための声を使い分けることができている様子が見られなかった。中学年では、教師に注意を与えられることにより頭声的発声で使っている子どももいるが、全体的にはまだ中・低音域の声がやや叫び声に近かった。高学年では、女子はほぼ頭声的発声できており、声が整っていた。しかし変声期に入った男子の声がバラバラで、高音域になると声を出すことへの意欲が低下する様子が見られた。中学校では、男声も女声も豊かな響く声に近づいている。しかし声域によっては密度の低さや土台となる声づくりの必要性が指摘された。

4) 全体の響きに関する課題

低学年では、全体で歌っている意識が乏しく、周囲と声をそろえることができていない。中学年では、声部の役割に意識が薄く、自他のパートを聴き合って歌えていないことが指摘された。高学年では、自分たちの歌声について他のパートの動きを理解した振り返りの発言ができるようになっているが、バランスへの留意が不足している。中学校では響きを合わせるために周囲を気にする生徒の姿があるなど、全体の響きへの意識が高まっている様子が見えかけた。

5) メタ認知に関する課題

低学年では、教室の前に出て歌う友だちの歌声について「いい声」「そろってすてき」など声質や間違いの有無などについての指摘ができていた。中・高学年では、録音を聴くことにより「高い音が小さくなる」「バランスが悪い」など、より高度な分析ができるようになっている。中学校では、練習中に自分たちの歌声をモニタリングすることができるようになっており、自分たちの演奏をよりよくするための会話を演奏後に行う姿が見られるようになっている。

4. 達成課題系列

授業観察結果を整理することにより、表1に示した各発達段階での主な課題を修正する形で、幼・小・中学校を見通した歌唱領域の達成課題系列を表3のように作成した。

このとき配慮したのは次の6点である。

- ① 姿勢・態度では、立っているときの姿勢と座っているときの姿勢の両方について、教師の指示を聞いて形成・持続できる段階から、教師の指示がなくても自主的にその姿勢を持続できる段階へと発展するようにした。
- ② 身体の使い方の領域は、歌うための呼吸に関する課題に限定し、横隔膜を十分に使ってフレーズにあった息の使い方ができる状態を目標とした。
- ③ 幼稚園の段階から、話したり、叫んだりする声と歌う声の違いを意識させるようにし、低音域と高音域で胸声的発声と頭声的発声をスムーズに使い分けられることを目標にした。
- ④ メタ認知は、自己評価とあらため、友だちの演奏や録音を聴いて声質や音程について評価できる段階から、歌いながら評価できる段階へと発展するようにした。
- ⑤ 全体の響きについては、直接的に操作の対象となる課題というよりも他の4領域の課題が達成されたときに実現すると期待される目標状態（～している）として右端に示した。
- ⑥ 中学校段階では、すべての領域について相互批評できることを課題とし、より主体的な歌唱行動も目標とすることにした。

5. 今後の課題

今年度の研究では、授業者自身の振り返りと授業観察シートを用いた児童・生徒の歌唱技能の実態調査から、各発達段階における達成課題系列を作成することができた。この達成課題系列を参照することにより、各学年の歌唱授業を計画・実施する際、どのような力をどの程度まで引き上げることを目指すべきか、その目標を定めることが容易になると考える。

表 3：歌唱領域達成課題系列

学年	姿勢・態度	呼吸	発声	自己評価	全体の響きの質
幼稚園	●教師の指示を聞いて、立っているときも座っているときも、歌っている間、まっすぐ前を向いて歌おうとしている		●話したり、叫んだりする声と歌う声の違いに気づいて歌える	●歌ったときの気持ちを言葉にできる	●適切な声量で斉唱している
小学校	低学年	●息を全部出して横隔膜を十分に使うことができる	●話したり、叫んだりする声と歌う声を区別して歌える	●友だちの声を聴いて、歌っている声と話している声の違いが分かる	●正しい音程と適切な声量で斉唱している
	中学年	●教師の指示を聞いて、身体の軸を保ちながら、立っているときも座っているときもまっすぐ前を向いて歌うことができる	●歌いながら、息を全部出して横隔膜を十分に使うことができる	●のどを開くことを意識しながら胸声の発声と頭声の発声の両方で歌うことができる	●正しい音程と統一された声質や声量で、斉唱・二部合唱している
	高学年	●教師の指示がなくても、身体の軸を保ちながら、立っているときも座っているときもまっすぐ前を向いて歌うことができる	●横隔膜を十分に使って、フレーズに合った息の使い方と歌うことができる	●のどを開いて低音域と高音域で胸声の発声と頭声の発声を使い分けすることができる	●歌いながら、全体の声質・音程・バランスについて評価できる
中学校	●身体の軸を保ちながら、立っているときも座っているときもまっすぐ前を向いて歌うことができる	●横隔膜を十分に使って、フレーズに合った息の使い方と歌うことができる	●響きのある胸声の発声と芯のある頭声の発声をスムーズに切り替えることができる	●歌いながら、全体の声質・音程・バランスについて評価し、改善の方法を提案できる	●曲想やパートの役割に合った声質や声量を自分たちで工夫して斉唱・合唱できるとともに、目標とする全体の声の響きを創り上げている

特に強調したいのは、中学校段階で演奏中に自分たちの演奏状態をモニタリングし、解決すべき問題を発見できることを目標とする自己評価領域の課題系列を設定したことである。学習指導要領の中で鑑賞領域における言葉による批評の重要性が強調される一方で、表現領域において自分たちの演奏の質について評価し、自律的に調整する力をどのように育てていけばよいのかについてはこれまであまり論じられてこなかった。しかしながら質の高い全体の響きを作り上げるためには、演奏者自身が自分たちの演奏をメタ認知的に評価し、改善すべき課題を発見する力が不可欠である。

来年度以降の研究では、今回作成した達成課題系列に基づき、個々の児童・生徒の達成状況をより詳細に評価するとともに、それぞれの発達段階における目標段階へ到達させるための具体的な指導方法について検討していく。

引用参考文献

- 1) Custodero L. (2010). "Music learning and musical development." In H. F. Abeles & L. A. Custodero, *Critical issues in music education : Contemporary theory and practice*, pp.113-142.
- 2) 佐々木 直樹 (2008) 「合唱指導における発声練習に関する研究(1)：ヴァルター・シュナイダーの発声練習の理論と方法(呼吸と共鳴)」『島根大学教育学部紀要, 教育科学・人文・社会科学・自然科学』42, 65-73頁
- 3) 虫明 真砂子・黒井かおり (2010) 「合唱の基礎能力を伸ばす指導法に関する研究 I」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』143, 27-38頁
- 4) 文部科学省 (2008a) 『幼稚園教育要領解説』
- 5) 文部科学省 (2008b) 『小学校学習指導要領解説音楽編』
- 6) 文部科学省 (2008c) 『中学校学習指導要領解説音楽編』

第 2 学年 2 組 音楽科学習指導案

平成 26 年 9 月 29 日

指導者 宮崎大学教育文化学部附属小学校 谷口 朋美

1 題材 「こころのうた」

2 目標

歌詞の内容や旋律の動きを感じ取り、どのように歌うかについて思いをもって歌うことができる。

3 教材 「虫のこえ」

文部省唱歌

4 指導計画（全 2 時間）

時	指導内容及び学習活動	評価規準	教材
		① 音楽への関心・意欲・態度 ② 音楽表現の創意工夫 ③ 音楽表現の技能	虫のこえ
1 (本時)	○ 曲の感じをつかみ、正しい音程、リズムで歌う。 ・ 正しい音程やリズムに気を付けながら、友達の歌声や伴奏の響きをよく聴きながら歌う。	【①】 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 【③】 友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の声をあわせて斉唱している。	
2	○ 情景を想像しながら、気持ちをこめて歌う。 ・ 前半と後半の曲想の違いを感じ取って、表情豊かに歌う。	【②】 音楽を形づくっている要素を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えやねがいを持っている。	

6 本時の目標

- 歌う姿勢や声に気を付け、正しい音程やリズムで歌うことができる。

7 学習指導過程

学習活動及び学習内容【共通事項】	指導上の留意点と評価(☆)＜評価方法＞
1 本時学習内容をつかむ。 ・ 虫の鳴き声の聴取 ・ 教材曲の聴取	○ コオロギやスズムシの鳴き声を聴かせた後に教材曲「虫のこえ」を聴かせることで、教材曲に興味をもつことができるようにする。 ○ 歌詞を見せずに教材曲を聴かせることで、虫の鳴き声の表現の面白さを感じ取ることができるようにする。
「虫のこえ」をうたおう。	

2 学習の見通しをもつ。	○ 「何回で歌えるようになりますか。」と問いかけ、自分たちで目標を決めさせることで、集中して歌うことができるようにする。
3 CDに合わせて歌う。	○ 机間指導をしながら、歌う姿勢についてアドバイスをを行うことで、姿勢を崩さずに歌うことができるようにする。
	☆ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 <観察法>
4 発表をする。	○ 早く歌えるようになった子どもは、目をつぶって歌わせることで、伴奏や友達の声聴きながら歌うことができるようにする。
	○ 「あとからうまおい」の部分を取り上げ、2通りのリズムで範唱することで、リズムの違いに気付くことができるようにする。
5 学習のふりかえりをする	☆ 友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の声をあわせて斉唱している。<観察法>
	○ 自信のある子どもに発表させ、聴き手に感想を伝えさせることで、表現の楽しさを共有できることができるようにする。
	○ 正しい音程やリズムで歌えるようになったことを称賛することで、「虫のこえ」が歌えるようになった喜びを味わうことができるようにする。

第 4 学年 2 級 音楽科学習指導案

平成 26 年 9 月 30 日

指導者 宮崎大学教育文化学部附属小学校 岡元 雅代

1 題材 「音楽を楽しもう」

2 目標

旋律の動きや強弱の働きが生み出す効果を感じ取りながら聴いたり、どのように歌うかについて思いや意図をもちながら、曲にふさわしい音楽表現をしたりすることができる。

3 教材 「ドレミの歌」 日本語訳詞 ベギー葉山 作曲 リチャード ロジャース 編曲 石桁冬樹
「ペールギュント 第 1 組曲から 山の魔王の宮殿にて」 作曲 グリーグ
「交響詩 はげ山の一夜」 作曲 ムソルグスキー

4 指導計画 (全 4 時間)

時	指導内容及び学習活動	評価規準 ① 音楽への関心・意欲・態度 ② 音楽表現の創意工夫 ③ 音楽表現の技能	教材 ドレミの歌 はげ山の一夜 山の魔王の宮殿にて
1 (本時)	○ 旋律の重なりを感じ取って二部合唱する。 ・ 階名唱をしてハ長調の視唱に慣れ親しむ。 ・ 互いの旋律を聴きながら、自分の声を合わせて歌う。	【①】 ハ長調の楽譜の旋律を見て歌ったり、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いたりする活動に進んで取り組もうとしている。 【③】 友達の歌声や互いの旋律を聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。	
2	○ 楽譜に記入されている強弱を生かして歌う。 ・ 強弱記号とその意味を確認し、楽譜のどこに出てくるかを調べる。 ・ 強弱記号に気を付けて歌い、旋律の上行、下行と強弱のかかわりを感じ取る。	【②】 旋律の動きや強弱の働きが生み出す効果を感じ取りながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【③】 友達の歌声や互いの旋律を聴き合いながら、曲想にふさわしい歌い方で歌っている。	
3	○ 「山の魔王の宮殿にて」の曲想の変化を感じ取って、情景を想像しながら聴く。 ・ 主な旋律を歌って親しむ。 ・ 拍の流れに合わせて体を動かしながら聴き、速度や強弱等の変化を感じ取る。	【①】 曲の感じを捉えながら聴いたり、主な旋律を歌ったりする活動に進んで取り組もうとしている。 【④】 旋律の特徴、速度や強弱の働きが生み出す曲想とその変化を感じ取って聴き、体の動きや言葉で表している。	
4	○ 「はげ山の一夜」の曲想の変化を感じ取って、情景を想像しながら聴く。 ・ 「山の魔王の宮殿にて」と比較鑑賞し、似ているところを見つける。 ・ 情景を想像しながら聴く。	【①】 曲の感じを捉えながら聴いたり、主な旋律を歌ったりする活動に進んで取り組もうとしている。 【④】 曲想を生み出している音楽を形づくっている要素を感じ取って聴いている。	

5 本時の目標

- 旋律の重なりを感じ取って、みんなで声を合わせて二部合唱をすることができる。

6 学習指導過程

学習活動及び学習内容【共通事項】	指導上の留意点と評価(☆)＜評価方法＞
<p>1 本時学習内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材曲の聴取 ○ 気付いたことの伝え合い <ul style="list-style-type: none"> ・ ア…斉唱、イの途中…二部合唱 ・ イ…階名唱 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>たがいの声を聴きながら2部合唱をしよう。</p> </div> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞唱→階名唱 ・ 二部合唱 ・ 旋律の特徴調べ ○ 演奏の順序 <p>3 旋律の重なりを感じ取って、二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音の上がり下がりの確認 ○ 声の響かせ方 ○ 二部合唱 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師と子ども ・ 隣の人と ・ 半分に分けて <p>4 旋律の特徴や楽譜に書かれている記号を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の山 ○ 強弱記号 <p>5 学習のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の見通し <ul style="list-style-type: none"> ・ 強弱記号を生かした表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口ずさみながら聴いてよいことを伝えることで、楽曲に対する関心を高めることができるようにする。 ○ 楽譜を提示せずに聴かせることで、斉唱の部分や重なる部分がある面白さや、前半と後半の曲想の違いを感じ取ることができるようにする。 ○ 楽譜を提示し、「D、C(ダ・カーポ)」に着目させることで、音楽の用語を知るとともに、演奏の順序を確認できるようにする。 ○ 旋律の動きを線でつないでいくようにすることで、音の上行・下行に共通点があることや、似たリズムがくり返されていること等の特徴に気付くことができるようにする。 ○ 低い音から高い音へ移る時の声の出し方について助言することで、声の変化をなめらかにいうという意識をもって歌うことができるようにする。 ○ 初めは教師と子ども全員で、次に人数を変えて等、段階をおって合唱させることで、互いの声を聴き合いながら二部合唱に取り組むことができるようにする。 ○ 「シは幸せよ さあ歌いましょう」の部分でだんだん声が盛り上がっていることを伝え、なぜ自然とそうなったのかを考えさせることで、曲の山とその歌い方について、旋律の動きを基に考えることができるようにする。 ○ 初めて出てくる強弱記号に着目させ、意味を説明することで、強弱記号を意識して歌うことへの意欲を高めることができるようにする。 ○ 次時は曲想を工夫して歌うことを告げることで、本時学習したことを生かして歌うことへの意欲を高めることができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ ハ長調の楽譜を見て歌ったり、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いたりする活動に進んで取り組み、互いの歌声を聴きながら二部合唱している。</p> <p style="text-align: right;">【1】【3】＜観察法＞</p> </div>

第6学年1組 音楽科学習指導案

平成26年9月30日

指導者 宮崎大学教育文化学部附属小学校 岡元 雅代

1 題材 「和音の美しさを味わおう」

2 目標

和音の響きの美しさを感じ取りながら想像豊かに聴いたり、どのように歌うかについて思いや意図をもちながら、曲にふさわしい音楽表現をしたりすることができる。

3 教材 「野ばら」 日本語詞 近藤朔風 作曲 ウェルナー 編曲 橋本祥路
「こげよ マイケル」 日本語詞 長崎一男 スピリチュアル 編曲 長谷部匡俊
「燃え上がれ！」 日本語詞 白石純 スピリチュアル 編曲 北里康太郎
「カンタータ147番から コラール」 作曲 バッハ

4 指導計画(全6時間)

時	指導内容及び学習活動	評価規準 ① 音楽への関心・意欲・態度 ② 音楽表現の創意工夫 ③ 音楽表現の技能 ④ 鑑賞の能力	教材	
			野ばら	燃え上がれ！ こげよマイケル コラール
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱の響きを味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍の流れや児童合唱の柔らかな響きを味わい、楽曲のよさや美しさについて気付いたことを話し合う。 ○ 楽曲の特徴を感じ取り、互いの声の響き合いを意識しながら、曲想を生かして合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの声を聴き合いながら合唱する。 ・ 音量のバランスに気を付けて、和音の響きやその移り変わりを感じながら合唱する。 	<p>【④】 合唱の響きの美しさを味わうとともに、和音の響きの移り変わりを感じながら聴いている。</p> <p>【③】 互いの歌声を聴いて全体の響きを感じ取り、自分の歌声が溶け込むように歌っている。</p> <p>【②】 互いの歌声や伴奏の響きを聴き、響き合いを意識して歌い方を工夫している。</p>		
4 (本時) 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声の響き合いに気を付けながら、楽曲の特徴を生かした表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音程や発音などに気を付けて、それぞれのパートの旋律を歌詞や階名で歌う。 ・ 互いの声を聴き合いながら合唱する。 ・ 斉唱の部分、合唱の部分、オクターブで重なる部分、掛け合いになる部分の歌い方を工夫する。 ・ 互いの歌声を聴き合い、全体の響きのバランスに気を付けて合唱する。 	<p>【①】 和音の響きの広がりや楽曲の構成に関心を持ち、進んで楽曲の特徴を捉えようとしている。</p> <p>【③】 互いの歌声を聴いて全体の響きを感じ取り、自分の歌声が溶け込むように歌っている。</p> <p>【②】 互いの歌声や伴奏の響きを聴き、響き合いを意識して歌い方を工夫している。</p>		
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 混声合唱とオーケストラによる響きを味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な旋律を口ずさみながら聴き、音の動きや響きなどの特徴をつかむ。 ・ 合唱の旋律や低音に気を付けて聴き、混声合唱とオーケストラによる響きの豊かさや和音の響きの移り変わりを感じ取る。 	<p>【①】 合唱の響きや主な旋律、低音の旋律に関心を持ち、和音の響きの移り変わりを感じ取って聴いている。</p> <p>【④】 それぞれの旋律の特徴に気付き、和音の響きの移り変わりを感じ取って聴いている。</p>		

5 本時の目標

- 和音の響きの広がりを感じ取りながら、互いの歌声を聴いて歌うことができる。

6 学習指導過程

学習活動及び学習内容【共通事項】	指導上の留意点と評価(☆)＜評価方法＞
<p>1 本時学習内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材曲の聴取 ○ 気付いたことの伝え合い <ul style="list-style-type: none"> ・ 三部合唱、短調、力強い 等 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">短調の和音の響きを感じながら、三部合唱で歌おう。</p> </div> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音取り ・ 三部合唱 ・ 旋律の重なり方調べ <p>3 呼吸や発音に気を付けてそれぞれの旋律を歌い、三部合唱に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音取り <ul style="list-style-type: none"> ・ 階名唱、歌詞唱 ○ 三部合唱 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師と子ども ・ 3つに分けて ・ 自分に合ったパートを選んで <p>4 旋律の重なり方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲のしくみ <ul style="list-style-type: none"> ・ 斉唱、合唱、オクターブ、掛け合い <p>5 学習のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 録音 ○ 次時の見通し <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想を生かした表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学習してきた曲の感じとの違いを考えながら聴かせることで、短調の和音の響きに関心をもつことができるようにする。 ○ 曲名や歌詞に着目させることで、暗い感じや寂しい感じだけでなく、力強さを表すときにも短調は効果的であることに気付くことができるようにする。 ○ 学習の見通しを確認することで、歌ったり調べたりする活動に主体的に取り組むことができるようにする。 ○ 中・低音域の発音に気を付けるよう助言することで、自然で無理のない声で歌うことができるようにする。 ○ 楽譜を示しながら真ん中と下のパートの旋律が主旋律よりも高くなっていることに着目させることで、各パートのバランスを意識して歌うことができるようにする。 ○ 初めは教師と子ども全員で、次に人数を変えてなど、段階をおって合唱させることで、互いの声を聴き合いながら三部合唱に取り組むことができるようにする。 ○ 旋律の重なり方を図で表したものを提示し、楽曲の構成を調べるようにすることで、重なり方を意識しながら三部合唱に取り組むことができるようにする。 ○ 旋律の重なり方を調べながら、実際に歌って響きを確認できるようにすることで、旋律の重なり方の違いを体感できるようにする。 ○ 自分たちの歌声を録音して聴く活動を取り入れることで、各パートのバランスを考えながら歌うことの大切さに気付き、次時への意欲を高めることができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>☆ 和音の響きの広がりや楽曲の構成に関心を持ち、それぞれの旋律の重なり方に気を付けて歌っている。【①】【③】＜観察法＞</p> </div>

第3学年B級 音楽科学習指導案

平成26年9月30日

指導者 宮崎大学教育文化学部附属中学校 金本 志秀

1 題材 「混声合唱の響き」

2 目標

歌詞の内容や、楽曲の旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらが合わさって醸し出す音楽の美しさを感じ、どのように歌うかについて思いや意図をもちながら、曲にふさわしい音楽表現や必要な歌唱技能を身に付けて合唱する。

3 教材 「歌え歌え!!」

作詞 金沢恵恵子 作曲 橋本祥路

「あの空へ～青のジャンプ～」

作詞 石田衣良 作曲 大島ミチル

4 指導計画(全8時間)

時	指導内容及び学習活動	評価規準 ① 音楽への関心・意欲・態度 ② 音楽表現の創意工夫 ③ 音楽表現の技能	教材	
			あ の 空 へ	歌 え 歌 え !
1 2 (本時) 3	○ パートに分かれて正しい音程、リズムを把握する。 ・ 美しく豊かな響きの発声に気を付けながら、自分のパートの役割を考えて歌う。	【①】 歌詞の内容や曲想、また声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。		
4	○ 楽譜に記入されている様々な楽語や記号を確認し、それを生かして歌う。 ・ 歌詞の内容や言葉が音楽の流れや曲想とかかっていることを理解し、フレーズを美しく歌う工夫を考える。	【②】 旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解し、歌詞の内容や曲想を味わって音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。		
5 6	○ 歌詞の内容や言葉の意味を理解し、曲の構成と音楽の特徴を生かした工夫を考えて合唱する ・ パートごと ・ 学級全体	【②】		
7 8	○ 学級としての工夫を練り上げ、美しく豊かな響きの歌声で歌い合わせる。 ・ 個人で工夫点を再考し、思いや意図をもった表現を考えながら、美しく豊かな響きの歌声で歌い合わせる。	【③】 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声や発音を身に付けて歌っている。		

6 本時の目標

- 美しく豊かな響きの発声に気を付けながら、自分のパートの旋律を正しく歌うことができる。

7 学習指導過程

学習活動及び学習内容【共通事項】	指導上の留意点と評価(☆)＜評価方法＞
<p>1 発声練習をする。 「あくび」 「スタッカート」</p> <p>2 「歌え歌え！！」を合唱する。</p> <p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業への意欲をもたせ、歌う雰囲気を高める。 ○ 声の響きを付けさせるために、歌う姿勢や口形、息や体の使い方に注意させる。 ○ 発声、強弱、言葉の表現などについて気づいた点を黒板にメモして、歌い終わった後アドバイスをする。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">美しく豊かな響きの発声に気を付けながら、自分のパートの旋律を正しく歌おう。</div>	
<p>4 「あの空へ～青のジャンプ～」のパート練習をする。</p> <p>5 「あの空へ～青のジャンプ～」の合唱練習をする。</p> <p>6 学級での練習の方法と次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい音程やリズムで歌えるように、4パートに分かれて、音取りのオルガンやピアノの音に合わせて練習する。 ○ パートリーダーやサブリーダー、音取りの係を中心にパート練習を進めさせる。 ○ 教師は各パートを回り、歌っている旋律の音程やリズム、声質や響きについてのアドバイスを行う。 ○ 音取りの終わった部分まで学級全体で合わせて、自分のパートの旋律を正しく歌えるかどうか確認させる。 ○ 美しく豊かな響きで歌えるよう、姿勢や口形を適宜アドバイスを行う。 ○ 正しいリズムで歌いながら4パートのタイミングが合うように手拍子を歌わせる。 ○ 一人一人がしっかり覚えられるよう学級でたくさん歌ってくるように告げる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> ☆歌詞の内容や曲想、また声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。＜観察法＞ </div>	